

●マダニのこわさを徹底的に学び予防に努めるためのテキスト

2017 年度版

制作・監修：Office Guri

このテキストの著作権はすべて Office Guri に所属します。記載内容の一部またはすべての転載・コピー・無断配布・WEB 上での掲載などを禁止します。

Office Guri の諸橋直子です。さて、春から秋にかけて犬にとっての害虫である「マダニ」の活動も活発になります。すでにこのテキストを手にとられている方の多くは、動物病院でダニを殺すためのなどの「駆虫薬」を処方されるなど対策をされていることと思います。

一方で、「駆虫薬」はあくまでも「体についてしまったダニを駆除する目的」で作成されており、虫そのものを寄せ付けない「防虫」の機能を持つものではない、またはあったとしてもそういう製品は少数なので注意が必要ということになります。

世間一般では、まだこうした正確な区別がされていないこと、何よりダニにかまれること自体でかかってしまう恐ろしい「感染症」なども存在します。大切なのは、こうした区別を知り、ダニの恐ろしさを学び、その上でそうしたマダニの恐怖から犬を守ることにあります。

そこで今回、「マダニのこわさを徹底的に学び予防に努めるためのテキスト」を作成し、多くの方にマダニについて正しい知識を知って頂く機会を設けた次第です。ぜひご活用ください。

1：「駆虫」と「防虫」の違いを正しく理解する

動物病院などで「ダニのお薬」として、背中に滴下するタイプの薬をもらう方が多いと思います。我が家も毎年これを利用していますが、同時に散歩に出かける際は「ダニ除けのアロマスプレー」を欠かしません。

「え？ダニのお薬をつけているのに何故アロマスプレーでわざわざ虫除けが要るのですか？」

そう思われた方がいらっしゃる場合は、「防虫」と「駆虫」を混同されている可能性が高いです。

ダニのお薬と一般に呼ばれているものは、いわゆる「駆虫薬」です。「駆虫薬」というのは、ひらたくいうと体についてしまった虫を殺す薬です。つまり、不幸にしてダニが犬の体についてしまった、その際、犬の体でそれ以上ダニが繁殖したり、血液を大量に吸って犬の健康に影響を与えないようにダニを殺す、という薬ですね。通常、48時間以内の駆除を歌う薬が多いようです。

一方で、マダニが犬の体につく、という経験をされた方であればご理解いただけると思いますが、ダニが犬の体に「食らいついている」のを見てぎょっとした！という経験をお持ちの方も多いはずですよ。

つまり、駆虫薬は別の言い方をすると「犬の体にダニが付いて初めて機能する薬」とも言えます。駆虫薬の有効成分が犬の皮膚に付着しており、それにダニが触れたり、口を刺して血を吸うなどの活動を通して、ダニに有効成分が吸収されます。

言い換えると、駆虫薬は「ダニが犬の体についてしまった際の最後の砦」という役割を担っているとも言えます。

ダニが体につくこと自体を予防するには、また別の「防虫」対策が必要になる、ということですね。

そして、この「食らいついている状態」が起きている時点で、すでに犬に「ダニを媒介とする感染症」にかかってしまうリスクが発生してしまっていることはご存知でしょうか？

「ええええ、どういうことですか!？」

とびっくりされた方もいらっしゃるかもしれませんが、これについて引き続き解説して

いきます。

2:マダニが媒介する感染症や直接的な寄生による健康被害の一例

●**アレルギー性皮膚炎**：マダニにかまれた際、その唾液が原因でアレルギーを発症するケースがあります。

●バベシア症：

感染した場合、貧血、発熱、黄疸、などの症状が現れます。特に発熱の場合は40℃を超える、呼吸が浅く苦しそうといった症状が見られるようになります。

●**バベシア症の感染経路**：バベシア原虫に感染しているマダニが犬の血を吸うことで、唾液を介してバベシア原虫が犬の体内に侵入します。その後、バベシア原虫が犬の赤血球に寄生し、赤血球を破壊します。これによって犬が重篤な貧血状態になるケースもあります。この唾液を介したバベシア原虫の体内侵入から、赤血球への寄生まで、約48時間とされています。

●**感染が多く、注意が必要な地域**：バベシアは西日本一帯での感染が多いとされます。九州・四国の一部地域から近畿地方までのエリアで特に感染率が高く、注意が必要です。近年、東へ感染地域が広がる傾向があるという報告もあるので、該当される地域にお住まいの場合は同様に注意が必要です。またバベシア症は、人間も感染するのでその点も注意が必要です。

●**治療法**：バベシア原虫を体内から完全に除去するのは、現時点では難しいとされています。そのため、抗菌剤、抗生物質などによってバベシア原虫の活動を抑える対処療法がとられます。そのため、犬の免疫力が落ちた際に症状が再発するなどのリスクを伴います。

以上のことから、犬がマダニにかまれた場合、数日たって様子がおかしい、という場合はすぐに獣医師へ相談し、適切な処置を行ってもらうことが大切です。

●エールリヒア症：

発熱、鼻汁が出る、涙が出る、食欲不振、貧血などの症状が現れます。最悪の場合死に至るケースもあるので注意が必要です。マダニの唾液を介して、原因となる病原菌が侵入しそれにより感染します。

8～20 日間の潜伏期間後に症状がみられるケースが多く報告されています。マダニにかまれてから発症までの期間が長いため、**もしマダニにかまれてしばらくして、これらの症状が出た場合は、速やかに獣医師にマダニにかまれた日時、その後の様子などを知らせ、適切な処置をしてもらうことが大切になります。**

●**治療法**：抗生物質の投与による治療が主に行われます。なお、予防ワクチンなどは現時点で開発されてないため、マダニ駆除薬の定期的な使用や、マダニそのものを寄せ付けない防虫の工夫などが重要な予防となります。

●ライム病：

食欲不振、痙攣、発熱、リンパ節障害、全身の倦怠感などの症状が現れます。感染する場合はマダニが犬の体について、血を吸った後 17 時間以降でライム病の原因となるボレリア菌が犬の体内に広がると考えられています。主に 本州中部以北（特に北海道および長野県）で多く感染報告がされている病気です。

●**治療法**：抗菌剤による治療が主に行われます。

*

いかがでしょうか？

マダニにかまれる、というだけで唾液がアレルギーになって皮膚炎発症のきっかけになったり、ダニの唾液を通してウィルスに感染することで、重篤な症状が引き起こされるリス

クはご理解いただけましたか？

「駆虫薬」は犬の体についたダニの数を増やさない、マダニによる吸血を最小限に食い止める、という意味で効果的です。

一方で、犬の体にマダニが付いて、がぶり、と噛みついた時点で「感染症」リスクが発生するのであれば、やはりマダニそのものを寄せ付けない「防虫」という対策も同じくらい大切であるということが、ご理解いただけると思います。

注意：犬の体にマダニが食いついているのを見つけても、あわててつまんで取ろうとしないで！

マダニが犬の体に食いついて血を吸っているのを見つけると「うわ！大変だ！」と一生懸命取ろうとしてしまいますが、こうしたマダニを見つけても、絶対に慌ててつまんで取ろうとしないでください。

理由は以下のような事実があるからです：

マダニは、吸血後体内で血液を消化する。そのため、もし、吸血中のマダニの「体」をつまんで犬から引きはがそうとすると、マダニが体内で消化中の血液が犬の体内に押し戻されることになり、このときの消化物および分泌物に病原体が含まれていればそれがそのまま犬の体内に侵入することになるため。

つまり、あわてて食いついているマダニの体をつまんで犬から引きはがそうとすることは、水がいっぱいの状態で犬の体に刺さっているスポイトを、それをつまんで中の水を犬の体に押し戻すようなものです。

この水が、マダニが吸った血液だと想像してみてください。その血液がすでにマダニの体内で病原菌によって汚染されている可能性が高いことを考えると、その怖さが実感いただ

けるかと思えます。

では、体についたダニを見つけたらどうしたらいいの？ということですが、最近は動物病院でも取り扱いが増えている「ダニ取り器」の使用がお勧めです。

我が家では、ピンセットタイプのものを使用しています。これは、マダニの体ではなく、マダニが犬の体に差し込んでいる「口」の部分をつまんで取るための器具です。「口」の部分をつまんで、ゆっくり回しながらマダニを取ることができます。

もし、かかりつけの獣医さんでダニ取り器を購入できる場合はそこで購入し、ついでに上手な使い方のアドバイスも聞いておくのがお勧めです。

近くで購入できない、という場合はネット通販でも入手可能ですので併せてご紹介しておきます。

→ ●ダニ取り器：<https://goo.gl/xlTZoc>

マダニがついてしまってかかりつけの病院にすぐ駆け込める場合はいいですが、外出先などでマダニが付いてしまった！という場合は、ダニ取り器を携帯していくことで、出先でも応急処置が可能になります。必要を感じる場合は1つ、常備しておく心安心です。

3：敵を知ろう！マダニってどういう生き物？どういうところに住んでいるの？

マダニ対策を考える際、まずは「敵を知る」という意味でダニの生態について知る必要があります。ここではマダニについての基本事項をお伝えすることにします。

【マダニ】

住んでいる場所：山や草むら。

マダニの吸血行動を促すもの：

生き物の体温、体臭、物理的振動、二酸化炭素などに反応して草むらから動物の体をとらえ、吸血します。

活動期間：春～秋と比較的長期間にわたり活動します。

以前は山などに多かったマダニも、最近は住宅街などでも頻繁にみられる事例が報告されています。そのため、犬の散歩の際には、不用意に犬が草むらなどに顔を突っ込まないように注意する必要があります。

また、マダニは「体臭」にも良く反応します。

そのため、体臭がきつめの犬の場合はその原因を探り、解決できるのであれば食事の見直し、シャンプーの工夫などで体臭を和らげることもマダニ防止のためには役立つケースがあります。

体臭を和らげるには、食事の水分量を増やす、ドライフードから水分が多めの手作り食に変えるといった工夫をすることで、体臭が和らぐケースも多くあります。もし興味のある方は手作り食を検討されても良いでしょう。

●体臭を和らげるのに、なぜ食事の水分量を増やすことで効果があると考えられるのか？

犬の体が老廃物を排泄する際、尿を介したルートがメインとなります。そのため、食事の水分量を増やすことで体内の老廃物排泄が進み、体臭が和らぐケースが多く報告されています。

ドライフードメインの食事から、手作り食に切り変えたら尿の量が増えて驚いたが、徐々に体臭も和らいでさらにびっくりした！という報告も良くいただきます。体臭が和らぐまでの期間は個体差がありますが、もし試してみたいという方はトライしてみるのもおすすめです。

ドライフードに鶏肉などを出汁にしたスープをかけるといった方法で水分量を増やし、同様の効果を得ているケースもありますので、手作り食はちょっと大変そう…という場合もスープがけでまずはチャレンジしてみるのもおすすめです。

以上、マダニを知り、マダニから愛犬を守るための基礎情報をまとめてお伝えしました。
ぜひこうした基礎知識を生かし、愛犬をマダニから守ってくださいね。

Office Guri:代表 諸橋直子 <http://www.officeguri.com/>

●Office Guri Facebook ページ

<https://www.facebook.com/officeguri/>

●犬の健康管理に役立つ電子書籍ライブラリ：アロマ・手作り食・マッサージ

<http://xn--the-pp9g.biz/>

制作・監修：Office Guri

このテキストの著作権はすべて Office Guri に所属します。記載内容の一部またはすべての
転載・コピー・無断配布・WEB 上での掲載などを禁止します。